

水無月号

道徳だより



テーマ：「道徳科」って、どうして必要なのだろう…？

京都市道徳教育研究会
 会長 前田 恵美
 広報部 部長 保本 貴之
 副部長 宮田 勝行
 尾花 陽一朗



道徳科は、どうして必要なのでしょう。「道徳科の目標」は、学習指導要領などに明示されていますが、その必要性を指導者自身が、自分の言葉に変換して捉えておくと、軸のしっかりとした道徳科の授業につながるのではないのでしょうか。一例を挙げて考えてみましょう。

あなたなら、どうしますか？

【公園での我が子たち — 楽しそうなのだけれど… — 】

- ① 親子3グループ、公園で遊んでいる。(男の子2歳児3名、母親3名、父親1名)。
 - ② 1人の子(我が子ではない、A君)が、水飲み場の蛇口を最大まで開いて噴水のように出し、B・C君はその下をくぐったり、水にかかって濡れたりして嬉しそうに遊んでいる。
 - ③ 母親2名はその様子を動画に撮り、楽しそうにしている。1名は一緒に見ているだけ。
- ※水飲み場の一部分は水浸しになり、水たまりになっている。
 ※周囲に人はおらず、迷惑はかかっている。

あなたなら、どうしますか？

どうしたらいいのだろう…

水がもったいないよ。限りある資源なのだし、「自分の家の中」と同じように、節度をもたないといけないよ。



Aの内容項目

善悪の判断, 自律,
 自由と責任
 節度, 節制
 個性の伸長

Bの内容項目

親切, 思いやり
 礼儀
 友情, 信頼
 相互理解, 寛容

楽しそうにしているとこっちも嬉しくなるね。普段から子育て大変で、今ぐらいいか自由にさせてあげられる場もないのかもかもしれないし…。



Cの内容項目

規則の尊重

みんなで使う場だから、みんなが気持ちよく使えるように、大人(親)が教えたり、伝えたりすべきなのではないかな。



ちょっとくらい、いいかなと思うけど、こういうことを我慢させているお家もあるだろうなあ。声をかけたらやめるかもしれないけど、言われた側はわたしを「鬱陶しいな」と思うだろうからそれも嫌だし…。いや、もしかしたらこれくらいがちょうどいいかなかもしれない。自分が気になるだけで…。でも、あの子たちが無く言われないように教えてあげたいなあ…。

「良識として」「相手の状況や立場を推し量って」「公共のマナーやルールを鑑みると」「自分と相手との関係性や環境の違い」…等さまざまに考え、声をかけたり、見守ったりすることと思います。このように、多様に物事を捉え、「よりよい選択をする」「よりよく生きる(生き方, 在り方を考える)」ために道徳科が必要…というのも1つの答えと言えるのではないのでしょうか。

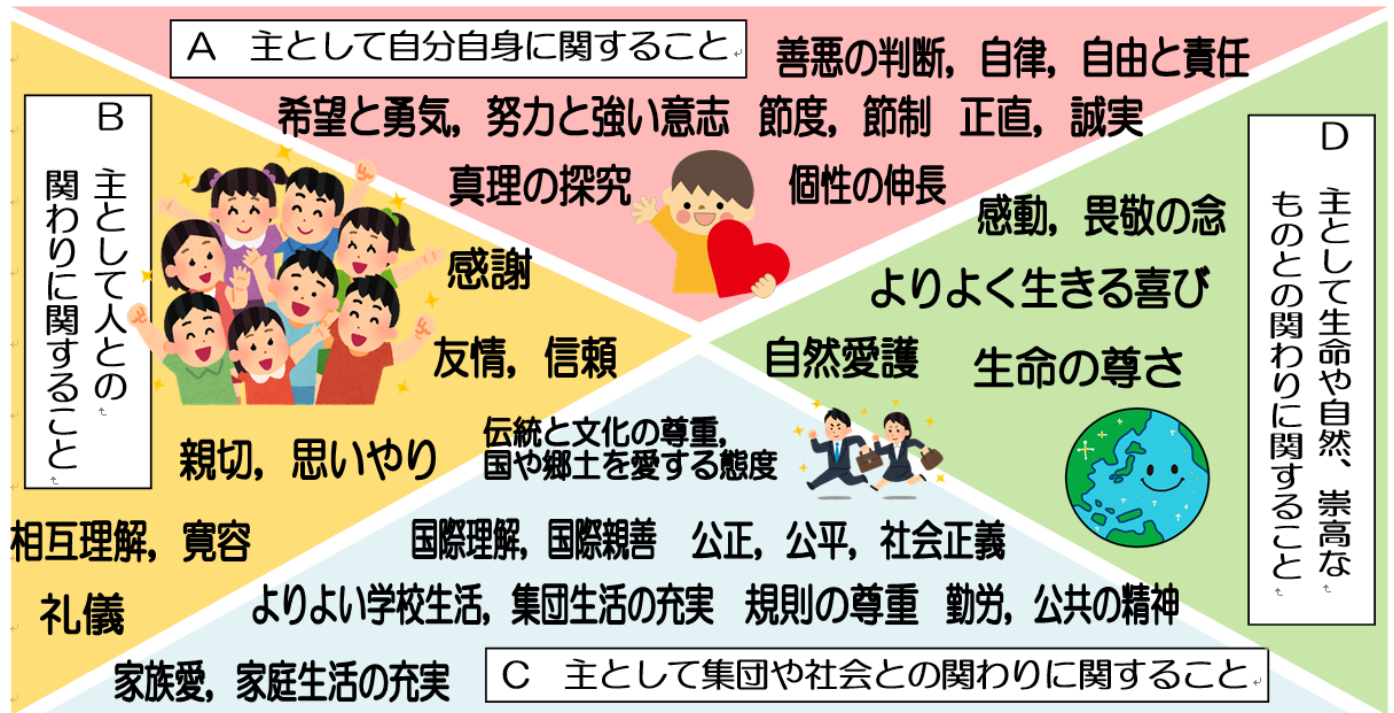
学習指導要領解説には以下のように示されています。

特別の教科 道徳 「道徳科の目標」

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、①道徳的諸価値についての理解を基に、②自己を見つめ、③物事を多面的・多角的に考え、④自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。



上記の①～④を培うべく、大きく分けて4つの視点（内容項目）を示しています。



どれも生活をしていく上で、そして「よりよく生きる」上で大切なことです。

子どもたちに培われるこうした道徳性は、自分の身近な環境（家庭や身近な大人）が大きく影響します。しかし家庭状況や保護者の価値観・考え方は様々異なり、すべての児童が同じ経験・体験をしたり、学びを得たりすることはなかなか難しいものです。ところが「道徳科」では、全ての児童が教科書や教材を通して「同じスタートライン」に立ち、それぞれの視点から思考し、判断し、交流することで共有し合うことができます。「そういう考えもあるのか」「いいな」と知ることの楽しさや面白さを感じたり、「そう思っていたのはわたしだけじゃなかったんだ」「・・・え？そんなありえないよ」と、自分と他との共通点や相違点に気が付ける機会になったりすることにもつながることでしょう。そう考えてみると、1週間に1回の道徳科が今より大切に思えたり、「集団の中で、よりよく生きるために大切な教科だなあ」と思えたりしてきませんか。